



2023 年 3 月 27 日

各 位

会 社 名 東 里 株 式 会 社
代表者名 代表取締役社長 永嶋 元博
(コード番号 7971 東証プライム市場)
問 合 せ 先 執行役員経営企画部長 加藤 晃朗
(TEL:06-6494-6637)

中期経営計画「SHINKA Plus ONE」期間設定の修正について

当社グループは 2021 年 4 月 20 日に公表しました中期経営計画「SHINKA Plus ONE」(2022 年 3 月期～2024 年 3 月期)について、重点戦略の柱となる設備投資計画並びに、事業環境の急激な変化に対応した足元の業績の進捗状況を踏まえ、対象期間を修正することといたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 修正の背景

当社グループは、長期ビジョン＜TOLI VISION 2030＞～ライフスタイルをデザインする企業へへの実現に向けた 2022 年 3 月期から 2024 年 3 月期を対象とする 3 ヶ年の中期経営計画「SHINKA Plus ONE」を策定し、経済的価値の拡大に加え、持続可能な社会の実現に向けた社会的価値の拡大を図り、東里グループ企業価値の最大化を目指しております。

初年度となる 2022 年 3 月期から長期化するコロナ禍に見舞われたことにより、策定当初と比べ足元の経営環境は大きく変化いたしました。特に、サプライチェーンの混乱と原材料調達環境の悪化は「SHINKA Plus ONE」で掲げた重点戦略の遂行に大きな影響を与え、今後の業績に寄与する重要設備投資計画のタイムスケジュールが概ね 1 年程度遅れた状態で進行しています。

また、原材料価格の高騰やエネルギーコストの上昇など、製造コストの上昇が長期間続いており、製造原価低減活動や数次にわたる販売価格改定等に努めた結果、収益改善への取り組みが浸透しつつあります。

以上のような経営環境の変化を踏まえ、3 ヶ年計画における各戦略のタイムスケジュールを見直し、長期ビジョン実現に向けた第 I フェーズで掲げた重点戦略を確実に推進すべく、中期経営計画「SHINKA Plus ONE」対象期間の修正を実施いたします。

尚、対象期間修正後の最終年度経営指標につきましては、経営環境の急激な変化に対応した足元の業績を踏まえまして、財務目標である重点目標指標は上方修正いたします。また、重要設備投資計画の進捗状況を踏まえまして、非財務目標である環境負荷低減目標は目標値を据え置いたまま計画実行期間の修正を行います。

2. 修正の内容

1) 対象期間の修正

中期経営計画の対象期間を1年間追加し、2025年3月を最終年度といたします。

(修正後) (修正前)
「SHINKA Plus ONE」2021～2024 ◀ 「SHINKA Plus ONE」2021～2023

2) 経営指標の修正

中期経営計画対象期間の修正により、中期経営計画の連結経営指標を下記のとおり修正いたします。

重点目標指標は収益環境の急激な変化に対応した現時点までの進捗状況を鑑み、上方修正いたします。また、環境負荷低減目標は重要設備投資計画の進捗が約1年遅れていることから計画実行期間の修正を行います。

「SHINKA Plus ONE」 連結経営指標		(修正後) <u>2025年3月期</u>	(修正前) 2024年3月期	◀	※2019年度比
重点目標 指標	売上高	<u>1,000億円以上</u>	950億円以上		
	営業利益	<u>35億円以上</u>	30億円以上		
	ROE	<u>5.5%以上</u>	5.0%以上		
環境負荷 低減目標	リサイクル率	85%以上	85%以上		
	産業廃棄物排出量	40%以上削減	40%以上削減		

3) 長期ビジョンについて

長期ビジョン実現に向けた第Ⅰフェーズとなる中期経営計画の修正に伴いまして、長期ビジョンにつきましても下記のとおり修正いたします。

<TOLI VISION 2030> 連結経営指標		(修正後) <u>2031年3月期</u>	◀	※2019年度比 ※2020年度比
重点目標 指標	売上高	売上高1,000億円企業としての安定的成長		
	営業利益	早期に60億円以上		
	ROE	10.0%以上		
環境負荷 低減目標	リサイクル率	90%以上		
	産業廃棄物排出量	60%以上削減		
	CO ₂ 排出量(スコープ1・2)	30%以上削減		

(リサイクル率) 東リグループ国内主要生産拠点・東リ物流(株)および本社の排出物に占める、グループ内リサイクル+有価リサイクルの割合
(産業廃棄物排出量) 東リグループ国内主要生産拠点・東リ物流(株)および本社の排出物のうち、グループ内リサイクル+有価リサイクル以外の排出物
(CO₂排出量) スコープ1: 東リグループの燃料使用にともなう直接排出 スコープ2: 東リグループが他社から購入した電気の使用に伴う間接排出

※ 詳細につきましては添付資料をご参照ください。

以 上

中期経営計画「SHINKA Plus ONE」期間設定の修正について

2023年3月27日



当社グループは、2030年のあるべき姿＜TOLI VISION 2030＞～ライフスタイルをデザインする企業へ～の実現に向けた2022年3月期から2024年3月期を対象とする3ヶ年の中期経営計画「SHINKA Plus ONE」を策定し、経済的価値の拡大に加え、持続可能な社会の実現に向けた社会的価値の拡大を図り、東リグループ企業価値の最大化を目指しております。

基本方針

進化

たゆまぬ進化で、事業基盤をより強固なものとする。

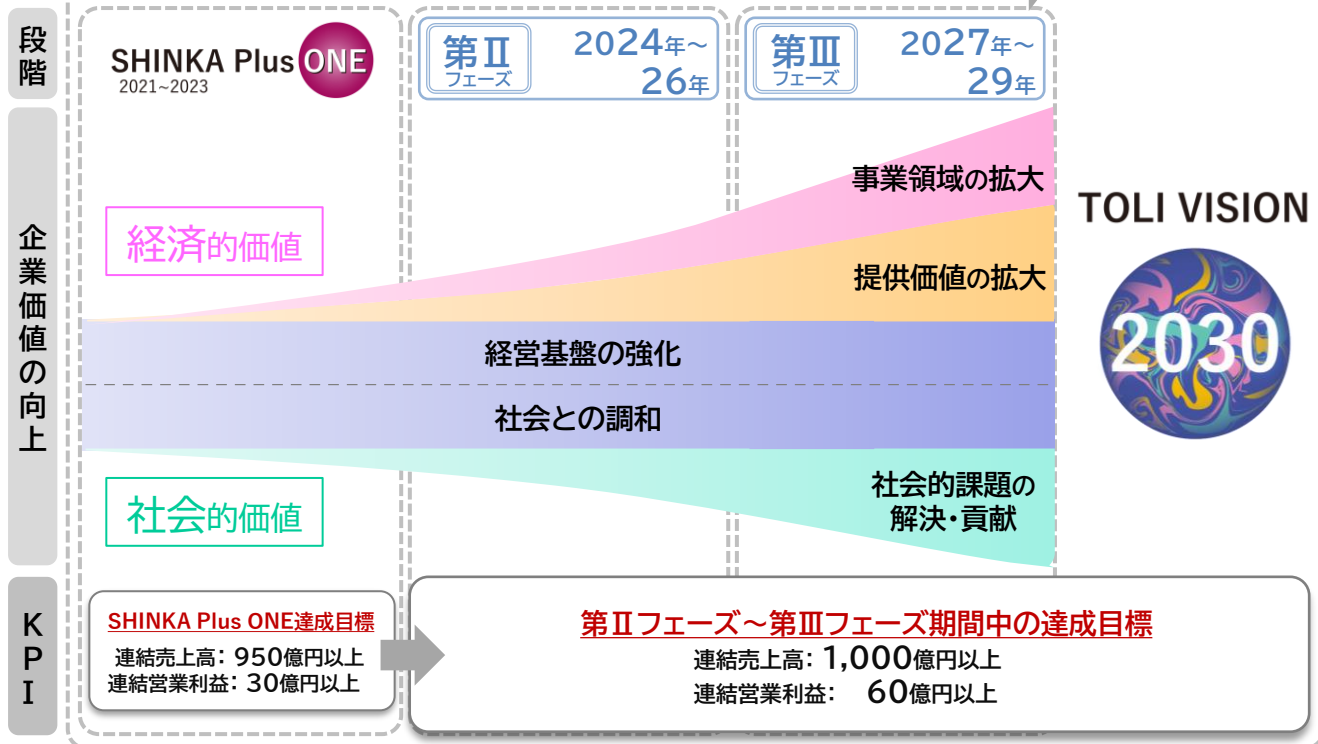
深化

あらゆる課題に対して、あくなき向上心をもって深掘りする。

真価

社会貢献に適う事業活動を推進し、「人」を中心とする企業価値を高める。

長期ビジョン達成に向けた成長プラン



事業環境の大きな変化

成長の核となる3つの重要設備投資計画の遅延

- 半導体不足や海運事情悪化、地政学リスクの高まり等の影響を受け、各種設備の納期と専門技師の派遣が遅れ、中期経営計画期間中の重要な設備投資計画が約1年遅れて進行しています。

＜中期経営計画期間中の重要な設備投資計画＞

投資案件		投資効果	進捗状況	稼働状況	
				当初計画	現時点
タイルカーペットリサイクルプラント	1号ライン	タイルカーペットのリサイクル推進による産業廃棄物排出量の削減及びリサイクル率の向上	コロナ禍の影響により設備設置が遅れ、当初計画より約1年遅れた2022年に本格稼働	2021年7月	→ 2022年8月 (稼働中)
	2号ライン	リサイクル量の拡大による産業廃棄物排出量の大幅削減に寄与	タイルカーペットリサイクル1号ラインの稼働が1年遅れた影響を受け、2号ライン計画が遅延	2022年度中	→ 2024年3月 (稼働見込み)
カーペット用ナイロン紡糸設備	1号機	ナイロン原糸の内製化による安定供給と製造原価低減、新製品開発	海外からの設備納入と専門技師の到着遅れにより計画が約10ヶ月遅延	2020年10月	→ 2021年8月 (稼働中)
	2号機	内製化比率を高め、タイルカーペットの更なる安定供給と製造原価低減、新製品開発を目指す	ナイロン紡糸1号機の稼働が遅れた影響を受け、2号機計画が遅延	2021年度中	→ 2023年4月 (稼働予定)
広化東リフロア3号ライン		ビニル床シート製造ラインの新設による製造原価低減並びに新製品開発を目指す	半導体不足の影響を受け、設備納入が遅れ、計画全体が約1年の遅延	2022年3月	→ 2023年1月 (一部稼働中)

事業環境の大きな変化

原材料調達環境の急激な悪化

- 原油価格の高騰や海運事情の悪化、円安などの影響により、当社製品の主要原材料価格が高騰したことを受け、これまでの製造原価低減活動の強化とともに、後追いの形ではありますが販売価格の改定も実施し、収益改善への取り組みが現在進行中です。
- 世界経済の減速や海運事情の悪化などにより、原材料サプライヤーからの供給が細り、サプライチェーンリスク軽減に対する取り組みを進めております。

《事業への主な影響》

事業環境の変化		対策
原材料価格の高騰	- 主要原材料(塩化ビニル樹脂・可塑剤・ナイロン原糸等)が高騰 - 電気代等のユーティリティーも大幅上昇中	2年間で3回(2021年7月、2022年5月・9月)の販売価格改定を実施 - 原材料価格高騰に対して、後追いで価格改定により収益改善には時間差が生じる
サプライチェーンリスクの高まり	- カーペット用ナイロン原糸サプライヤーからの供給量が大幅に減少 - 輸入原材料の納期遅れに伴う在庫切れが多発	- カーペット用ナイロン原糸製造などの川上技術の取り込みに注力し、商品の安定供給を図る - 更なるナイロン紡糸機の増設に着手するなど、サプライチェーンの再構築を図るとともに、独自商品開発にも注力

計画対象期間の修正

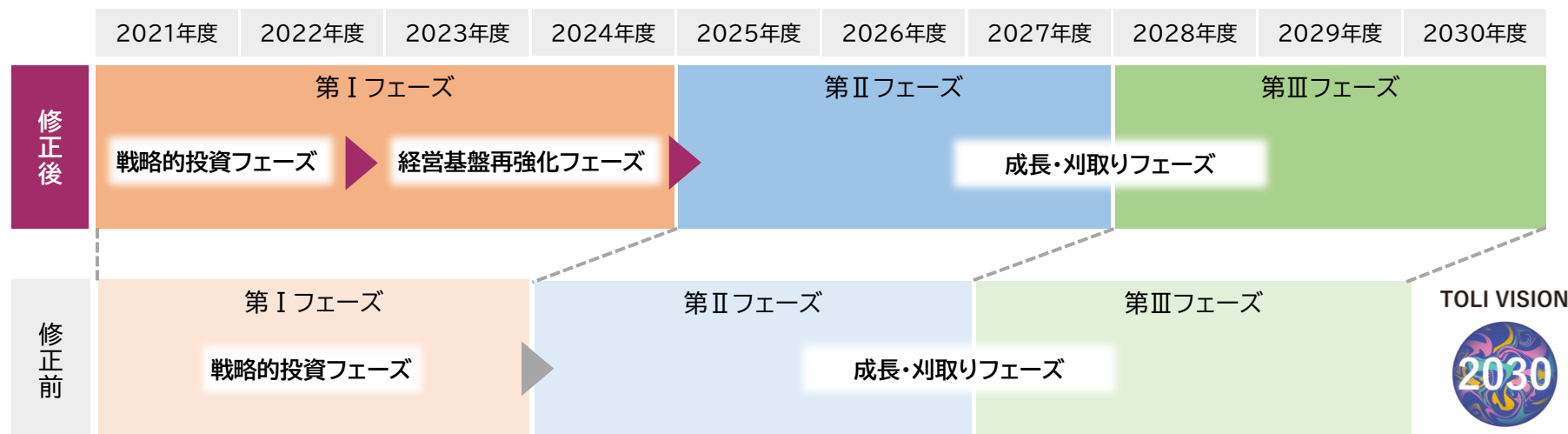
SHINKA Plus ONE
2021~2023



SHINKA Plus ONE
2021~2024

- 重要設備投資計画遅延の影響より、中期経営計画3ヶ年における各戦略のタイムスケジュールを見直し、長期ビジョン実現に向けた第Ⅰフェーズで掲げた重点戦略を確実に推進するべく、**第Ⅰフェーズの対象期間を3ヶ年計画から4ヶ年計画に修正**します。
- 第Ⅱフェーズ以降は3ヶ年計画とし、2030年度を最終年度とする計画に修正します。

《長期ビジョン達成に向けたスケジュール》



最終年度経営指標の修正

- 事業環境の変化の影響により、最終年度経営指標を修正します。
- 製造原価低減活動や販売価格改定の浸透に伴い、**重点目標指標を上方修正**します。(下図アンダーライン部分)
- 設備投資計画の遅れの影響により、**環境負荷低減目標は目標値を据え置いたままで計画実行期間を修正**します。

＜中期経営計画 経営指標＞

SHINKA Plus ONE 2021~2024		2024年度 (修正後)	2023年度 (修正前)
重点目標指標	売上高	<u>1,000億円以上</u>	950億円以上
	営業利益	<u>35億円以上</u>	30億円以上
	ROE	<u>5.5%以上</u>	5.0%以上
環境負荷低減目標	リサイクル率	85%以上	85%以上
	産業廃棄物排出量	40%以上削減 (2019年度比)	40%以上削減

＜長期ビジョン 経営指標＞

TOLI VISION 2030		2030年度 (修正後)
重点目標指標	売上高	売上高1,000億円企業としての安定的成長
	営業利益	早期に60億円以上
	ROE	10.0%以上
環境負荷低減目標	リサイクル率	90%以上
	産業廃棄物排出量	60%以上削減 (2019年度比)
	CO ₂ 排出削減量	30%以上削減 (2020年度比)

※リサイクル率：東リグループ国内主要生産拠点・東リ物流拠および本社の排出物に占める、グループ内リサイクル+有価リサイクルの割合

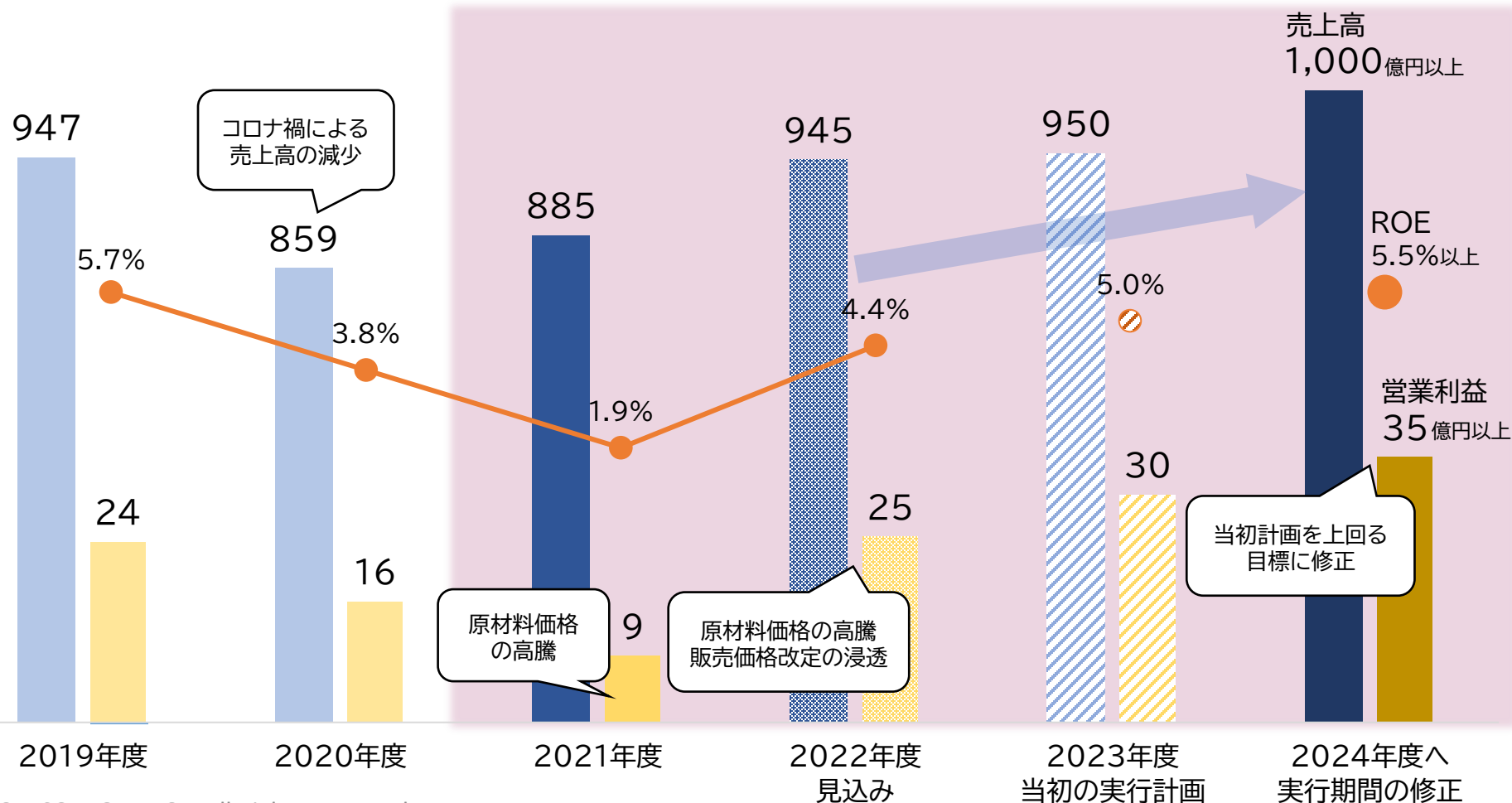
※産業廃棄物排出量：東リグループ国内主要生産拠点・東リ物流拠および本社の排出物のうち、グループ内リサイクル+有価リサイクル以外の排出物

※CO₂排出量：スコープ1:東リグループの燃料使用にともなう直接排出 スコープ2:東リグループが他社から購入した電気の使用に伴う間接排出

修正の内容（財務指標）

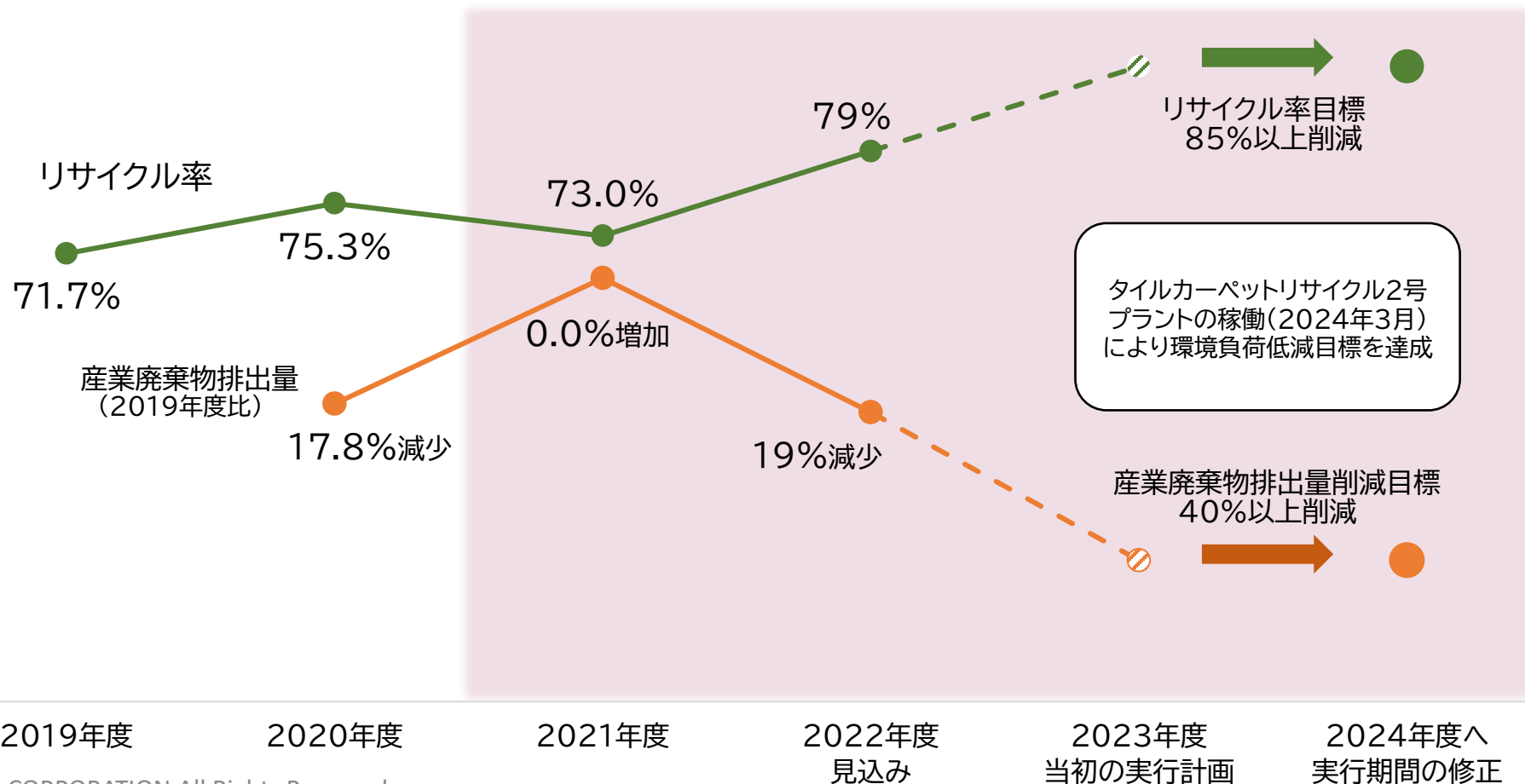
《重点目標指標（売上高・営業利益・ROE）》

- ・ 販売価格改定の浸透・維持に注力し、連結売上高1,000億円以上を目指します。
- ・ 重要設備投資計画の早期稼働を図り、製造原価低減・安定供給・新製品開発に注力します。
- ・ 利益拡大とともに株主還元の充実を図り、資本効率の向上を目指します。



《環境負荷低減目標（リサイクル率・産業廃棄物排出量）》

- 2024年3月稼働予定のタイルカーペットリサイクル2号プラントの稼働により、タイルカーペット産業廃棄物排出量の大幅削減が可能となることから、使用済みタイルカーペットの回収量拡大を図り、サーキュラーエコノミー（循環型社会）の実現に貢献してまいります。
- 従来からリサイクル率の高いビニル系床材においても更にリサイクル技術を高め、産業廃棄物排出量の削減を目指します。





IRに関する
お問い合わせ先

東リ株式会社
経営企画部

e-mail

toli_ir@toli.co.jp

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、当社の目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界動向や外部環境認識等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性や完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。